

原著論文

## 助産学生の視座から捉えた看護学生への性に関する ピアエデュケーションの教育的効果の検討

中島久美子<sup>1)</sup>・廣瀬文乃<sup>1)</sup>・吉野めぐみ<sup>1)</sup>・綿貫真歩<sup>1)</sup>

### Educational Effectiveness of Peer Education on Sexuality for Nursing Students from the Perspective of Midwifery Students

Kumiko NAKAJIMA<sup>1)</sup>・Ayano HIROSE<sup>1)</sup>・Megumi YOSHINO<sup>1)</sup>・Maho WATANUKI<sup>1)</sup>

#### 要 旨

【目 的】 看護学生への性に関するピアエデュケーションの経験を通じた助産学生の学びと自己意識の発達を明らかにし、ピアエデュケーターの助産学生の視座から捉えたピアエデュケーションの教育的効果を検討する。

【方 法】 量的研究と質的記述的研究を用いた混合研究デザインである。本学助産学生23名を対象に無記名質問紙調査を実施した。ピアエデュケーションの準備初回時と講義実施後に自己肯定意識尺度を測定し、講義実施後の助産学生の学びを自由記載により収集した。

【結 果】 自己肯定意識尺度の比較検討の結果、準備初回時よりも講義実施後に対自己領域の【自己受容】と【自己表明・対人的積極性】が高まり ( $p<0.05$ )、対他者領域の【被評価意識・対人緊張】が低下した ( $p<0.05$ )。質的帰納的分析の結果、3カテゴリが抽出された。ピア学生の視点で講義や準備を通じた気づきは、【ピアの学生にとって興味関心の持てる講義・準備の難しさ】他3サブカテゴリ、ピアエデュケーターの経験を活かした女性への関わりの期待は、【性に関する知識や講義計画を活かした母親に理解しやすい保健指導】他1サブカテゴリ、ピアエデュケーターの経験による自己成長は、【自分の考えを仲間に伝えることで得られた自信】他3サブカテゴリとなった。

【結 論】 ピアエデュケーターの助産学生の視座から捉えたピアエデュケーションの教育的効果として、以下の内容が示唆された。ピアエデュケーションの講義準備を通じた学びは、学生自身のピア活動の経験を振り返ることにより今後の実習に展開できる抽象的な概念化へと繋がる。ピアエデュケーターの経験は、女性たちの性に関する自己決定について助産師として支援する役割を考える経験学習となり得る。ピアエデュケーター同士の仲間意識を育てていく経験は、助産師のアイデンティティ形成の基盤となる態度に繋がる。

キーワード：助産学生、ピアエデュケーション、自己意識の発達、助産師のアイデンティティ、経験学習

---

1) 群馬バース大学看護学部看護学科

## I. は じ め に

我が国では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（女性の性に関する健康と権利）を守ることが国の施策として取り入れられ、特に人工妊娠中絶の増加や性感染症の問題においては健康支援の必要性が高まっている。助産師は、妊娠出産のみならず、女性の生涯に関わり支援する役割を担っている。助産教育においても、周産期の診断とケアが中心的に行われているが、幅広く女性の健康を取り巻く現状に対応するための支援が重要である。助産師に求められる実践能力<sup>1)</sup>では、マタニティケア能力だけではなく、ウィメンズヘルスケア能力への充実を図り、ライフサイクル各期のリプロダクティブ・ヘルスに関するケアが助産教育に包含されている。若者の望まない妊娠による人工妊娠中絶や性感染症を予防するためには、避妊や感染予防の正しい知識や情報だけでなく、性的行動に伴う社会的責任についての「自己決定」をしていくための実践力を身に着けることが重要である。若者の性に関する問題へ取り組むための手段として、従来の一方的な知識の提供型の教育でなく、ピアエデュケーションやピアカウンセリングといったピア（仲間）によるサポート活動が注目されている<sup>2)</sup>。これまで、性の健康に関するピアエデュケーションの研究では、ピアエデュケーターは大学生や医療系の学生が主であり、中高生を対象とした思春期の健康教育に有効であると報告されている<sup>3)</sup>。また、ピアエデュケーターにとってピア活動の経験は、知識が増し、理解が深まるといった認知領域だけでなく、行動変容や自信を深める体験となり、経験回数を重ねることにより、知識、価値観、技術において深化することが明らかにされている<sup>4)</sup>。

本学の保健科学部看護学科助産師課程の学生（以下、助産学生）は、将来助産師として、女性のライフステージにおける看護を担い、特に性に関する支援をしていく立場にある。助産学生は、助産師課程の講義・演習、実習を通して、妊娠出産時の女性へのケアを行うことから、リプロダクティブ・ヘルスの視点に加えて、ピアの立場からのメッセージを伝えることができる。一方、本学の保健科学部看護学科2年生（以下、看護学生）は、母性看護学の講義で「ライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）における女性の健康問題と看護」を学び、さらに助産学生によるピアエデュケーションを受講することで、看護学生の自己の性への意識化や青年期の自己成長に繋がり、性に関する看

護の役割を認識するといった教育的効果が報告されている<sup>5)</sup>。しかし、ピアエデュケーターの助産学生の視座において、看護学生への性に関するピアエデュケーションを実践した研究報告は見当たらない。

以上のことから、助産学生のピアエデュケーションによる経験は、ピアエデュケーターである助産学生の自己成長に繋がり、自己肯定意識の向上をもたらすと考えられる。さらに、将来助産師として女性やカップルの健康問題や自己決定の支援に関する役割を担うための一助となり、助産師のアイデンティティ形成に繋がり教育的意義は大きいといえる。

## II. 目 的

本研究の目的は、看護学生への性に関するピアエデュケーションの経験を通じた助産学生の学びと自己意識の発達を明らかにし、ピアエデュケーターの助産学生の視座から捉えたピアエデュケーションの教育的効果を検討する。

## III. 用語の定義

ピアエデュケーション（仲間教育）とは、テーマについて「正しい知識・スキル・行動を共有し合うこと」である<sup>6)</sup>。

## IV. 方 法

### 1. 研究デザイン

ピアエデュケーション前後の比較による量的研究と質的記述的研究を用いた混合研究デザイン

### 2. 対象および調査期間

2018年度～2022年度（2020年度を除く）にA大学の保健科学部看護学科助産師課程4年次に在籍した学生6名、4年間で延べ23名を対象とした。2020年度は、COVID-19により対面講義が開催できず、実施しなかった。調査期間は、2018年6月～2022年6月であった。

### 3. ピアエデュケーションの概要

#### 1) 学習目標

助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標では、ウィメンズヘルスケア能力として、「女性とパー

トナーに対する支援：家族計画（受精調節法を含む）の指導、性感染症罹患の予防に関する啓発活動の理解」を掲げている。本学の助産学生のピアエデュケーターの学習目標を以下とした。

- (1) 看護学生が性感染症の予防に対して正しい知識・スキル・行動を共有し合うことができるように支援する。また、性感染症による不妊症等の母子への影響を理解できるように伝える。
- (2) 看護学生が望まない妊娠の予防に対して正しい知識・スキル・行動を共有し合うことができるように支援する。また、望まない妊娠による人工妊娠中絶の看護を理解できるように伝える。
- (3) さらに、上記(1)(2)の予防的行動をとるための自己決定や相手の価値観について理解できるように促す。

## 2) ピアエデュケーションの位置づけと講義準備

助産学生のピアエデュケーションの実施と準備は、助産師課程カリキュラムの「母子と家族の心理社会学」の科目に位置づけた。この科目は、4年次助産師課程の専門科目群に位置し、ウィメンズヘルスケア能力を養う科目である。

ピアエデュケーション準備は、以下の通りである。

- (1) 講義の初回（準備初回時）では、「女性のライフ

サイクル：女性とパートナーに対する支援」の中で科目担当教員より、望まない妊娠と人工妊娠中絶、性感染症（STD）の予防についての講義、及びピアエデュケーションの役割と実施に向けての説明を受けた。

- (2) 講義の2回目（準備2回目）は、ピアエデュケーションのための準備として、学習目標(1)(2)の内容を2グループ、各3名で分担し、学習目標に沿った指導案を作成し、全体ディスカッションを行った。
- (3) ピアエデュケーション実施の1カ月前（準備3回目）では、プレゼンテーションの予行演習を行い、複数の母性看護学・助産学領域の教員から不十分な点や不明瞭な点の補足を受け、修正を加えた。さらに、各自の時間で、プレゼンテーション用の資料や台本等を作成するための準備を行った。また、看護学生が履修する母性看護学の講義「ライフサイクル各期（思春期編）における女性の健康問題と看護」を聴講し、事前にピアの看護学生の学習状況の把握を行った。

## 3) ピアエデュケーションの講義実施と参加状況

ピアエデュケーションを活用した看護学生への講義は、2年次の母性看護学総論の講義とは別に看護学生



図1 ピアエデュケーションの実際

2年生への時間外の講義として「性と生殖に関する健康問題と看護：望まない妊娠と性感染症の予防」について、1コマ（90分）を設定した。単に知識を教えるのではなく、看護学生と同じ目の高さで伝えることを心掛け、堅苦しくない雰囲気づくりに配慮するように実施した。ピアエデュケーションは、ブレインストーミングやクイズ、ロールプレイング、ディスカッションを組み込んだプログラムとした（図1）。看護学生のピアエデュケーションの参加は、任意であることを母性看護学総論の初回オリエンテーション時に説明し、ピアエデュケーションの受講時には、本研究の主旨と目的、研究の結果が成績には一切影響がないこと、プライバシーの保護などについて、口頭で説明した。参加した看護学生は4年間で延べ226名であった。

#### 4. 調査方法及び調査内容

ピアエデュケーションの準備初回時（4月）と講義実施後（6月）の2時点において、無記名質問紙調査を実施した。調査内容は以下の通りである。

##### 1) 自己肯定意識

平石<sup>7)</sup>が作成した自己肯定意識尺度を使用した。この尺度は、青年期における自己意識の発達を自己肯定性次元から測定でき、対自己領域と対他者領域の2側面で構成されている。質問は41項目であり、対自己領域の【自己受容】（4項目）、【自己実現的態度】（7項目）、【充実感】（8項目）と対他者領域の【自己閉鎖性・人間不信】（8項目）、【自己表明・対人的積極性】（7項目）、【被評価意識・対人緊張】（7項目）、それぞれ3下位尺度から成る。「あてはまる」～「あてはまらない」の5段階評定で回答を求めた。

##### 2) ピアエデュケーションの講義実施後の学び

ピアエデュケーションの講義実施後は、①講義や準備の中で最も心に残ったこと、②講義や準備を通じた学び、③助産学生としての今後の活用、④ピアエデュケーションの経験による自己成長、について自由記載にて回答を求めた。

#### 5. 分析

各質問項目における準備初回時と講義実施後の中央値の比較は、Wilcoxon 符号付順位検定を用いて検討した。また、各下位尺度の平均値と標準偏差を求め、準備初回時と講義実施後の平均値の比較を対応のあるt検定を行い検討した。統計解析ソフト IBM SPSS Statistics 24を用いて行い、有意水準は5%とした。

自由記載の学びの内容は、文脈単位でコード名を付けた。それぞれのコードが内包する意味表現の同質性、異質性に基つき分類し、サブカテゴリとさらに上位概念であるカテゴリの抽出を試みた。分析の過程では、質的研究法を熟知した母性看護学・助産学の研究者3名でカテゴリ分類や命名の精度を高めるために話し合いを繰り返し、結果の信頼性の確保に努めた。

#### 6. 倫理的配慮

研究対象者に対して、研究の主旨と目的を説明した。また、研究参加の有無や辞退、結果が成績には一切影響がないこと、匿名性の確保及びプライバシーの保護などについて口頭で説明した。本研究に関しては、群馬パース大学倫理審査委員会の承認を得た後に実施した（承認番号 PAZ18-1）。

## IV. 結 果

### 1. 自己肯定意識尺度の準備初回時と講義実施後の比較

ピアエデュケーションの準備初回時と講義実施後における自己肯定意識尺度の回答分布を表1に示す。対自己領域である【自己受容】においては、4項目中、「自分の良い所も悪い所もありのままと認めることができる」が準備初回時よりも講義実施後に有意に高かった（ $p=0.000$ ）。【自己実現的態度】では、7項目中、「自分の良い面を一生懸命伸ばそうとしている」が準備初回時よりも講義実施後に有意に高かった（ $p=0.039$ ）。【充実感】では、8項目全てにおいて有意差が認められなかった。対他者領域である【自己閉鎖性・人間不信】では、8項目全てにおいて有意差が認められなかった。【自己表明・対人的積極性】では、7項目中、「人前でもありのままと自分を出せる」（ $p=0.045$ ）、「自主的に友人に話しかけていく」（ $p=0.033$ ）の2項目において準備初回時よりも講義実施後に有意に高かった。【被評価意識・対人緊張】では、7項目中、「人に対して自分のイメージを悪くしないかと恐れている」が準備初回時よりも講義実施後に有意に低かった（ $p=0.016$ ）。

準備初回時・講義実施後における各下位尺度の平均値を表2に示す。対自己領域の【自己受容】の平均値は、初回時 $3.98 \pm 0.45$ 、実施後 $4.34 \pm 0.37$ で、準備初回時よりも講義実施後に有意に高かった（ $p=0.000$ ）。【自己実現的態度】、【充実感】は、いずれも有意差が



表1 ピアエデュケーション準備初回時・講義実施後における自己肯定感尺度の各質問項目と回答分布 (n=23)

質問項目	準備初回時 四分位範囲			講義実施後 四分位範囲			p 値
	25%	中央値	75%	25%	中央値	75%	
対自己領域							
【自己受容】							
①自分なりの個性を大切にしている	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	0.096
②私には私なりの人生があっても良いと思う	4.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	0.059
③自分の良い所も悪い所ありのままを認めることができる	3.00	3.00	4.00	4.00	4.00	4.00	0.000**
④自分の個性を素直に受け入れている	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	0.107
【自己実現的態度】							
⑤自分の夢をかなえようと意欲に燃えている	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	0.627
⑥情熱をもって何かに取り組んでいる	3.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	0.608
⑦前向きの姿勢で物事に取り組んでいる	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	1.000
⑧自分の良い面を一生懸命伸ばそうとしている	3.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	0.039*
⑨張り合いがあり、やる気が出ている	3.00	4.00	5.00	3.00	4.00	5.00	0.454
⑩本当に自分のやりたいことが分からない（逆転項目）	3.75	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	0.564
⑪自分には目標というものがない（逆転項目）	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	0.739
【充実感】							
⑫生活がすごく楽しいと感じる	3.00	3.00	4.00	3.00	3.00	4.00	0.448
⑬わだかまりがなくスカッとしている	3.00	3.00	4.00	3.00	3.00	4.00	0.285
⑭充実感を感じる	3.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	0.134
⑮精神的に楽な気分である	2.00	2.00	3.00	2.00	3.00	3.00	0.327
⑯自分の好きなことがやれていると思う	3.00	4.00	5.00	3.00	4.00	4.00	0.803
⑰自分のはのびのび生きていると感じる	3.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	0.805
⑱満足感がもてない（逆転項目）	3.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	0.196
⑲心から楽しいと思える日がない（逆転項目）	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	0.153
対他者領域							
【自己閉鎖性・人間不信】							
⑳他人との間に壁を作っている	2.00	2.00	3.00	2.00	2.00	3.00	0.927
㉑人間関係をわずらわしいと感じる	2.00	3.00	3.00	1.00	2.00	3.00	0.231
㉒自分は他人に対して心を閉ざしているような気がする	1.00	2.00	3.00	1.00	2.00	3.00	0.957
㉓自分は一人ぼっちだと感じる	1.00	2.00	2.00	1.00	1.00	2.00	0.097
㉔私は人を信用しない	1.00	2.00	2.00	1.00	2.00	2.00	1.000
㉕友達と一緒にいてもどこかさびしく悲しい	1.00	2.00	2.00	1.00	1.00	2.00	0.454
㉖友達と話していても全然通じないので絶望している	1.00	1.00	2.00	1.00	1.00	2.00	1.000
㉗他人に対して好意的になれない	1.00	2.00	2.00	1.00	2.00	2.00	0.248
【自己表明・対人積極性】							
㉘相手に気を配りながら自分の言いたいことを言うことができる	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	0.248
㉙自分の納得行くまで相手と話し合うようにしている	3.00	4.00	4.00	3.00	4.00	5.00	0.248
㉚疑問だと感じたらそれを堂々と言える	2.00	3.00	4.00	3.00	4.00	4.00	0.202
㉛友達と真剣に話し合う	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	0.593
㉜人前でもこだわりなく自由に感じたまま言うことができる	2.00	3.00	4.00	3.00	4.00	4.00	0.217
㉝人前でもありのままの自分を出せる	2.00	3.00	4.00	3.00	3.00	4.00	0.045*
㉞自主的に友人に話しかけていく	3.00	4.00	5.00	4.00	4.00	5.00	0.033*
【被評価意識・対人緊張】							
㉟人から何か言われないか変な目で見られていないかと気にしている	2.00	4.00	4.00	2.00	3.00	4.00	0.134
㊱人に対して自分のイメージを悪くしないかと恐れている	2.00	3.00	4.00	2.00	3.00	4.00	0.016*
㊲自分が他人の目にどう映るかを意識すると身動きできなくなる	2.00	2.00	3.00	1.00	2.00	3.00	0.359
㊳他人に自分の良いイメージだけを印象付けようとしている	2.00	2.00	3.00	1.00	2.00	2.00	0.057
㊴無理して人にあわせようとして窮屈な思いをしている	2.00	2.00	2.00	1.00	2.00	2.00	0.271
㊵自分は他人より劣っているか優れているかを気にしている	2.00	3.00	4.00	2.00	2.00	4.00	0.490
㊶人に気を使いすぎて疲れる	2.00	2.00	3.00	2.00	2.00	3.00	0.816

Wilcoxon 符号付順位検定 \*\*p&lt;0.001 \*p&lt;0.05

表2 ピアエデュケーション準備初回時・講義実施後の自己肯定感尺度の平均の比較 (n=23)

		準備初回時 mean ± SD	講義実施後 mean ± SD	P 値
対自己領域	自己受容	3.98 ± 0.45	4.34 ± 0.37	0.000 **
	自己実現的態度	4.02 ± 0.72	4.14 ± 0.60	0.258
	充実感	3.55 ± 0.61	3.58 ± 0.68	0.837
対他者領域	自己閉鎖性・人間不信	1.94 ± 0.64	1.82 ± 0.65	0.281
	自己表明・対人的積極性	3.54 ± 0.71	3.81 ± 0.64	0.012 *
	被評価意識・対人緊張	2.70 ± 0.79	2.48 ± 0.84	0.027 *
		対応のある t 検定	*p<0.05	**p<0.001

認められなかった。対他者領域の【自己表明・対人的積極性】の平均値は、初回時3.54±0.71、実施後3.81±0.64で、準備初回時よりも講義実施後に有意に高かった (p=0.012)。【被評価意識・対人緊張】の平均値は、初回時2.70±0.79、実施後2.48±0.84で、準備初回時よりも講義実施後に有意に低かった (p=0.027)。【自己閉鎖性・人間不信】は、有意差が認められなかった。

## 2. ピアエデュケーションを通した学びの内容

ピアエデュケーションを通した学びの内容を質的帰納的に分類した結果、169コード、10サブカテゴリ、3カテゴリが抽出された(表3)。なお、カテゴリを構成するサブカテゴリを【 】、コードの示す記述内容を「 」で示す。

### 1) ピア学生の視点で講義や準備を通した気づき

【ピアの学生にとって興味関心の持てる講義・準備の難しさ】

このサブカテゴリは、ピアの学生にとって興味関心のもてる講義内容を準備することの難しさや、講義の準備に費やす時間がかかり大変だったことが印象に残ったという内容を示した。

「どう伝えたら興味を持ってもらえるか、どう伝えたら理解してもらえると、相手のことを考えながら準備や講義ができた。」「ピアの準備と他の課題の準備を一緒に進めないといけないう時があり、時間がとれずに大変だった。」

【ピアの学生の理解しやすく関心のもてる講義内容の工夫】

このサブカテゴリは、根拠や事実を伝え相手の理解

表3 ピアエデュケーションを通した学び

カテゴリ	サブカテゴリ	コード	コード数
ピア学生の視点で講義や準備を通した気づき	ピアの学生にとって興味・関心の持てる講義・準備の難しさ	ピアの学生にとって興味・関心のもてる講義を計画することが難しかった	8
		ピアの学生にとって興味・関心のもてる具体的な事例を準備できた	4
		講義の準備に費やす時間がかかり大変だった	3
	ピアの学生の理解しやすく関心のもてる講義内容の工夫	知識だけでなく根拠や事実を伝え理解に繋げることが必要と学んだ	11
		ピア学生の関心が抱けるような講義内容を考えることが必要と学んだ	7
		講義・準備を通して自らも性感感染症の知識と中絶に関する考えが深まった	7
	ピアの学生の意見を引き出し相手に伝わる関わり方の難しさ	ピア学生の意見を引き出せる関わり方の難しさを学んだ	6
		ピア学生に伝わる言葉かけの難しさを学んだ	9
ピアエデュケーターの経験を活かした女性への関わり方の期待	ピアの学生の視点で考え様々な意見から学んだ新たな気づき	ピアの学生の視点で一緒に学ぶ姿勢の重要性を学んだ	11
		ピア学生の様々な意見を通して新たな気づきが得られた	13
	性に関する知識や講義計画を活かした母親に理解しやすい保健指導	性に関する知識を活かして理解しやすい保健指導に役立てたい	8
		講義の計画立案を活かして母親への保健指導に役立てたい	5
		ピアの学生への伝え方を活かして母親に理解しやすい伝え方をしていきたい	8
	ピアエデュケーターの姿勢を活かした女性に寄り添い尊重した関わり	妊産婦や母親と共に考える関わりをしたい	5
		妊産婦や母親の思いを引き出し尊重した関わりをしたい	5
		女性に寄り添い受容的な関わりをしたい	5
ピアエデュケーターの経験による自己成長	仲間と作り上げた達成感	助産学生と協力し合って講義を作り上げる達成感があつた	8
		ピアの学生の真剣な態度や仲間と考えるを共有できた満足感	17
	自分の考えを仲間に伝えることで得られた自信	講義ではピアの学生と助産学生とで考えを共有することができた	4
		仲間と共に講義準備をする過程を通して自分の考えを伝えられ自信につながった	4
	ピアエデュケーターの立場で正しい知識を適切に伝えるという責任感	ピアエデュケーションを通して相手に伝える方法を学び自信につながった	10
		講義を受ける立場からピアエデュケーターとして伝える立場になり自身の成長を感じた	6
		人に教えることを通して正しい知識を適切に伝えるという責任を感じた	5

に繋げることや関心のもてる講義内容を工夫することを学び、講義準備を通して自らも性感染症や中絶への知識や考えが深まった学びの内容を示した。

「(看護)2年生とは、知識が違うので、わかりやすく理解してもらえるように身近なことに置き換えて、想像しやすい事例を考える必要があった。」「内容が固くなりすぎないように、クイズや隣の人と相談する時間を設けたり、発表者も聞き手に意見を聞いたりしたことでお互いに楽しめる講義になった。」「性感染症について調べていく中で、性感染症は若い世代に多く症状に気付かない人もおり、将来の妊娠にも影響を及ぼす可能性があるということを学んだ。」

【ピアの学生の意見を引き出し相手に伝わる関わり方の難しさ】

このサブカテゴリは、ピアの学生の意見を引き出せる関わり方や相手に伝わる言葉がけの難しさを学んだ内容を示した。

「(看護学生に)どのように質問したら求めたい答えに導けるのか難しかった。」「発表の仕方は一定のトーンで淡々と話すのではなく、笑顔で明るく話すことで(看護)2年生も私たちの話を聞いてくれる姿勢になったと感じた。」

【ピアの学生の視点で考え様々な意見から学んだ新たな気づき】

このサブカテゴリは、講義や準備を通して、ピアの学生の視点で一緒に考え学ぶ姿勢が重要であり、仲間の意見から新たな気づきが得られ、他者との考え方の違いを理解できた学びの内容を示した。

「(相手が)ピアという事を意識して、一緒に学ぶという気持ちで講義を作る事が大切であると学んだ。」「自分にはなかった意見が出せたり、自分の思いを書ける人もたくさんいて、誰にでも自分の意志がある事を確認できた。」

## 2) ピアエデュケーターの経験を活かした女性への関わり期待

【性に関する知識や講義計画を活かした母親に理解しやすい保健指導】

このサブカテゴリは、性に関する知識や講義の計画立案を活かして、助産学生として妊産婦や母親が理解しやすい保健指導に役立てたいという内容を示した。

「性感染症や人工妊娠中絶に関する知識もより深まったので、女性や母子に対しても専門的で寄り添った支援が出来るように活かしていきたい。」「今後、保健指導を行うこともあると思うので、今回の計画方法

などをしっかり活用していきたい。」「出産や育児に対して様々な疑問や悩みを持つ母親が多いと思うので、ピアエデュケーションで(看護学生に対して)わかりやすく伝えられたように、1人ひとりの母親に向けてそれらのことをできるようにしていきたい。」

【ピアエデュケーターの姿勢を活かした女性に寄り添い尊重した関わり】

このサブカテゴリは、妊産婦や母親の思いを引き出し、相手を尊重した関わりや女性に寄り添い受容的な関わりをもちたいという内容を示した。

「助産学生として、母子に関わる際には、自分の意見や考えを一方的に伝えるのではなく、母親や家族の意見をしっかりと聞き、一緒に考えていくという姿勢を持って関わっていききたいと思う。」「今回、相手の関心や考えを引き出せるように作ったが、これは実際の妊産婦にも言えるので、今回の事を活かしながら実習でも関わっていききたい。」「望まない妊娠をして自分を追い詰める女性に対しては、側にいたり、受容したりすることが非常に大切だと分かった。」

## 3) ピアエデュケーターの経験による自己成長

【仲間と作り上げた達成感】

このサブカテゴリは、助産学生同士が協力し合い講義を作り上げた達成感が印象に残ったという内容を示した。

「メンバーと1つのものを作りあげる達成感があってよかった。」

【ピアの学生の真剣な態度や仲間と考えを共有できた満足感】

このサブカテゴリは、ピアの学生が真剣に講義を聞いてくれ、意見を共有することができたことの満足感が印象に残ったという内容を示した。

「講義をする前は先生ではない学生が話すので、あまり聞いてくれないのかなと思ったが、クイズや質問にもしっかりと考えて答えてくれて嬉しかった。」「看護2年生から実際に考えを聞くことで自分たちの考えをさらに深めることができた。」

【自分の考えを仲間に伝えることで得られた自信】

このサブカテゴリは、仲間と共に講義準備をする過程を通して自分の考えを伝えたり、相手に伝える方法を学び自信につながった内容を示した。

「はじめはメンバー内で意見を出すのも遠慮がちであったが、徐々に率先して準備に取り組み、メンバーの意見に対しても意見が言えるようになった。」「ピアエデュケーションから、相手への伝えかたを学ぶ事が

でき、コミュニケーションのとり方に対して自信を持つ事ができた。」

【ピアエデュケーターの立場で正しい知識を適切に伝えるという責任感】

このサブカテゴリは、講義を受ける立場からピアエデュケーターとして伝える立場になり自身の成長を感じたことや、人に教えることを通して正しい知識を適切に伝えるという責任を感じたことの内容を示した。

「今まで、講義を受けて学びを得たが、自分たちが伝える事ができて成長したと思う。」「人に教えるということで、正しい情報を適した方法で伝えなくてはならないという責任感があり、これは自身の成長につながったと思う。」

## V. 考 察

### 1. 自己肯定意識の比較検討

学生の自己肯定意識に関する研究では、学生の自己実現的態度、自己受容、対人的積極性、被評価意識を高めることが、学生のやる気をおこし、生きがい感を高めることに繋がると指摘されている<sup>8)</sup>。本研究においても自己肯定意識尺度の対自己領域【自己受容】と対他者領域の【自己表明・対人的積極性】では、講義実施後に有意に向上し、「自分の良いところも悪いところもあるままを受け入れる」という自己受容の意識や、「人前でありのままの自分を表現できる」、「自主的に友人に話しかける」といった自己表明・対人的積極性の意識が高まった。ピアエデュケーションの準備段階から、ピアエデュケーターの仲間同士のディスカッションを行い、他者との協調や協働が図られ、さらにピア活動を通してピア学生への積極性が高まった結果であると考えられる。

また、対他者領域の【被評価意識・対人緊張】において講義実施後に有意に低下し、「人に対して自分のイメージを悪くしないか」といった意識が低下した。講義準備の回数を増やしていく中で、ピアエデュケーターの仲間同士の関係性に変化が生じ、他者からどのように評価されているかの意識が軽減し、対人緊張が緩和された結果と考えられる。

以上のことから、ピアエデュケーションの経験は、自己を受容し、他者への積極性と緊張の緩和に繋がり、自己意識の発達に影響を及ぼす学習であったと考えられる。

### 2. ピアエデュケーションの経験が助産学生に活かされた学習効果

Kolb は、学習を「経験を変換することで知識を創り出すプロセス」と定義し、具体的な経験をし、その内容を振り返り内省することで、そこから得られた教訓を抽象的な仮説や概念に落とし込み（抽象的な概念化）、それを新たな状況に適用することによって学習するものとしている<sup>9)</sup>。本研究ではピア学生の視点で講義や準備を通した気づきとして、【ピアの学生の理解しやすく関心のもてる講義内容の工夫】では、知識だけでなく根拠や事実を伝え相手の理解に繋げることを学び、【ピアの学生の意見を引き出し相手に伝わる関わり方の難しさ】では、ピアの学生の意見を引き出せる関わりの難しさや相手に伝わる関わり方の難しさを学び、学生自身のピア活動の経験を振り返っている。さらに、このような具体的な経験から女性への関わりの期待として、【性に関する知識や講義計画を活かした母親に理解しやすい保健指導】があり、対象に理解しやすい保健指導に役立てたい、対象に理解しやすい伝え方をしたいと学びの教訓を活かしていきたいと記されている。つまり、助産学生は、一つのピア活動の経験を振り返ることにより得られた教訓から、今後の実習の場で関わる妊産婦や母親にも展開できる抽象的な概念化を行う考えを導き出していたと考えられる。

また、講義や準備を通した気づきとして、【ピアの学生の視点で考え様々な意見から学んだ新たな気づき】があり、ピアの学生の立場で相手と一緒に考え学ぶ姿勢の重要性を学んだことが記されている。さらに、このような具体的な経験から女性への関わりの期待として、【ピアエデュケーターの姿勢を活かした女性に寄り添い尊重した関わり】において、妊産婦や母親と共に考え思いを引き出したい、女性に寄り添い受容的な関わりをしたいというように、ピア活動の経験を学生自身が振り返り、相手と共に考え尊重した関わりを重要視する考えが追加されている。

助産師や看護職は、正しい知識を持つ専門職が正しい在り方を導き指導するという意識があるが、ピア活動の発想は全く異なり、対象に寄り添い、一番納得できる解決策を見出すように支援する役割がある<sup>10)</sup>。よって、助産学生は、ピアの相手に寄り添い相手と同じ視線で物事を考えることで新たな気づきが得られ、さらに、その教訓を将来助産師として、女性たちが自分の力で性に関する自己決定ができるように支援する役割を考えることに繋げていたといえる。



ピアエデュケーション実施後の自由記載で記された内容は、助産学生自身の気づきによるものであり、本学では、ピアエデュケーション実施後の助産学生と教員間の振り返りを実施していない。ピアエデュケーションの経験は、指導者も交えての振り返りの会を持つことがピア活動の方向性を見出す支援をする上で重要であるとされている<sup>10)</sup>。よって、今後はピアエデュケーション実施後に教員も交えての振り返りの機会を設け、実行した結果の成功要因や反省点の気づきを促すことが重要である。助産学生が得た具体的経験を抽象的な概念化まで落とし込み、助産実践活動への適用を考える機会を設けることによって、ウィメンズヘルスケア能力に寄与するものになるといえる。

### 3. ピアエデュケーターとしての経験が助産学生の自己成長に及ぼす影響

ピアエデュケーターの養成マニュアルでは、ピアエデュケーターの要件として、ピアエデュケーターの養成を受講することが示されている<sup>2)</sup>。一方で、助産学生がピアエデュケーターとしてピア活動を実施した研究結果によると、モデル的養成講座を受講しない助産学生においても、性と生殖に関する講義を受けており、自律的に学習を行うことができるため、ピアエデュケーターとしての前提条件は十分満たしていると報告されている<sup>11)</sup>。本学の助産学生においても、命の誕生に関わりたいという強い意志をもち助産師課程を履修しており、性と生殖に関する講義を受け事前に準備をしていることから、養成講座を受講していなくてもピアエデュケーターとしての要件を整えていると考えられる。

ピア活動を通して重要視されることは、ピアエデュケーターたち自身がピアとして育ち合うプロセスを尊重することである<sup>10)</sup>。また、学生が他者との間で疑問や感じたことを率直に言え、納得のいくまで話し合いができ、ありのままの自分を出せる環境を提供することが学生の自己肯定意識を高め、やる気を高めることに繋がる<sup>9)</sup>。本研究においても、ピアエデュケーターの経験による自己成長として、【仲間と作り上げた達成感】や【ピアの学生の真剣な態度や仲間と考えを共有できた満足感】があり、助産学生と協力し合って講義を作り上げる達成感やピアの学生と一緒に考えを共有できたことの満足感があったと記されている。さらに、【自分の考えを仲間に伝えることで得られた自信】や【ピアエデュケーターの立場で正しい知識を適切に

伝えるという責任感】があり、仲間と共に講義準備をする過程を通して自分の考えを伝えられたという自信に繋がり、ピアエデュケーターとして伝える立場になり責任を感じたことが記されている。ピアエデュケーションの手法を用いた母性看護学演習の取り組みに関する研究においても、学生自身が能動的に学習する能力とピア同士の力も借りながら学習を進める姿勢が備わりピアエデュケーターへの教育効果を示唆している<sup>12)</sup>。

これらのことは、先に述べた助産学生の自己肯定意識の比較検討の結果から、ピアエデュケーション実施後に自己受容や対人的積極性が高まり、対人緊張が緩和されたことから裏付けられている。よって、ピアエデュケーター自身がお互いの思いを表出し、仲間と意見を交換しながら仲間意識を育てていく経験が助産学生の自己意識の発達に効果的であったと考えられる。助産学生は、将来助産師として女性やカップルの健康問題や自己決定の支援に関する責任のある役割を担うことから、ピアエデュケーターの経験から得られた自信や責任感は、助産師のアイデンティティ形成の基盤に繋がる経験となったといえる。

## VI. 本研究の限界と課題

本研究は、同一大学を在籍する学生に限定されているため一般化には限界がある。また、量的調査は、準備初回時（4月）と講義実施後（6月）の2時点における3カ月間の評価であり、この結果がピアエデュケーションの講義準備の経験だけのものとは限定できず、この期間の全ての経験が影響を受けていることが考えられる。今後の課題は、助産学生によるピアエデュケーション実施後の教員・学生間の振り返りを行い、ピア活動の経験から助産実践活動の適用へと考えを深める必要がある。

## VII. 結 論

看護学生への性に関するピアエデュケーションの経験を通した助産学生の学びと自己意識の発達を明らかにした。それにより、ピアエデュケーターの助産学生の視座から捉えたピアエデュケーションの教育的効果が示唆された。

1. 助産学生は、ピアエデュケーションの講義準備を通した学びを振り返ることにより、助産学生として今後の実習で関わる妊産婦や母親への

ケアにも展開できる抽象的な概念化の考えを導き出していた。

2. 助産学生のピアエデュケーションの経験は、ピアの相手に寄り添い共に考えることで新たな気づきが得られ、将来助産師として、女性たちが性に関する自己決定ができるように支援する役割を考える経験学習であった。

3. ピアエデュケーター同士の仲間意識を育てていく経験は、助産学生の自己意識の発達に効果的であった。ピアエデュケーション前後の自己肯定意識の比較検討によって、助産学生の自己受容や自己表明・対人的積極性の意識の向上と対人緊張の緩和が認められたことから裏付けられた。ピアエデュケーターの経験から得られた助産学生の自信や責任感、助産師のアイデンティティ形成の基盤に繋がっていた。

ピアエデュケーションは、助産学生と看護学生の双方に教育的効果が期待される教育方略であり、新たな看護・助産教育の提案に繋がる可能性が示唆された。

本論文の一部は、第35回日本助産学会学術集会で発表した。論文内容に関し開示すべき利益相反の事項はない。

## 引用文献

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育検討会報告書2019年10月15日 <https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf> (参照2022-4-5)
- 2) 高村寿子編. 思春期の性の健康を支えるピアカウンセリング・マニュアル～ピアカウンセラー(学生)版～, 東京, 小学館, 2005, p.10-18, ISBN4-09-837234-7.
- 3) 宮内彩, 佐光恵子, 鈴木千春, 他. 思春期における性教育としてのピアエデュケーションに関する研究動向. 思春期学. 2013, vol.31, no.2, p.243-251.
- 4) 畠山美怜, 笹野京子, 長谷川ともみ. 思春期ピアカウンセリング・ピアエデュケーション活動がピアカウンセラーへ及ぼす影響についての文献研究. 富山大学看護学紀要. 2017, vol.17, no.1, p.39-48.
- 5) 中島久美子, 吉野めぐみ, 廣瀬文乃, 他. 看護学生の視座から捉えた助産学生による性のピアエデュケーションの教育的効果の検討. 母性衛生. 2023, (印刷中)
- 6) 日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会 <http://www.jpcaea.net/pia.html> (参照2018-4-5)
- 7) 山本真理子編／平石賢二, 自己肯定意識尺度－心理測定尺度集Ⅰ, 東京, サイエンス社, 2001, p.16-23, ISBN978-4781909875.
- 8) 青野明子. 学生における達成動機と生きがい及び自己肯定意識の関連. 国際研究論叢. 2008, vol.21, no.3, p.23-34.
- 9) 松尾陸. 経験からの学習－プロフェッショナルへの成長プロセス－, 東京, 同文館出版, 2006, p.60-63, ISBN4-495-37581-4.
- 10) 川島広江, 大石時子編. 助産師のための性教育実践ガイド. 東京, 医学書院, 2014, p.195-198, ISBN978-4-260-000918.
- 11) 坪川トモ子, 渡邊典子, 田崎充子, 赤羽礼子. 性教育における助産専攻学生による高校生に対するピアエデュケーションの効果. 新潟青陵学会誌. 2013, vol.6, no.1, p.35-45.
- 12) ケニヨン充子, 三里久美子, 岸田泰子. ピアエデュケーション手法を用いた母性看護学演習のピアエデュケーターへの教育効果. 共立女子大学看護学雑誌, 2020, vol.7, p.13-21.

## Abstract

**Objective:** To clarify midwifery students' learning and development of self-consciousness through the experience of peer education on sexuality for nursing students. Thereby, examining the educational effects of peer education as seen from the perspective of peer educators' midwifery students.

**Methods:** A mixed research design combining quantitative and qualitative descriptive research was used. A questionnaire survey was administered to 23 midwifery students at the university. The survey measured the Self-Positive Attitude Scale at the first time of preparation and after the lecture. In addition, midwifery students' learning through peer education was collected by free writing.

**Results:** A comparative study of the Self-Positive Attitude Scale revealed that [Self-acceptance] and [Self-expression/Personal positiveness] in the self-realm area increased after the lecture compared to the first time of preparation ( $p < 0.05$ ). In addition, [Evaluated consciousness/Interpersonal tension] in the other-person area decreased ( $p < 0.05$ ).

The following three categories were extracted from the qualitative and inductive analysis. Notably, lectures and preparation from the peer students' perspective observed [The difficulty of preparing lectures that are interesting to peer students] and three other subcategories. Expectations for supporting women using my experience as a peer educator were [Health guidance that is easy for mothers to understand by utilizing knowledge about sex and lecture plans] and one subcategory. The personal growth generated by the experience as a peer educator was [Confidence gained by sharing my thoughts with my peers] and three subcategories.

**Conclusion:** The following contents were suggested as educational effects of peer education from the perspective of peer educators' midwifery students. Learning through peer education lectures/preparation leads to abstract conceptualization that can be developed into future practice by midwifery students reflecting on their own experiences with peer activities. The peer educator's experience can be experiential learning to reflect on their role as midwives in supporting women in their self-determination of sexuality. The experience of developing camaraderie among peer educators can lead to attitudes that form the basis of midwifery identity.

**Key words:** midwifery students, peer education, development of self-consciousness, midwifery identity, experiential learning